

総会開催について

理論懇談会総会を天文学会春期年会の期間中に開催致します。多くの会員の方のご出席をお願い致します。

日時：1989年5月17日（水）12:00～13:00

場所：天文学会B会場

これに先立ち運営委員会も開催致しますので、運営委員の方々はご参集下さい。

日時：1989年5月16日（火）18:00～19:00

場所：東京大学理学部物理学教室（部屋は後日お知らせします）

委員会報告など

理論懇運営委員会委員長の高原文郎さんから、先日国立天文台で開かれました総合計画委員会と理論共通専門委員会についての報告と計算機利用についてのコメントがあります。同封の別紙をご覧ください。

年会費納入のお願い

前回のサーキュラーで年会費の納入のお願いを致しましたが、まだ会員の半分以上の方が納入されていません。まだ納められていない方は会の円滑な運営のために速やかに年会費（2000円）を下記の口座に振り込んで下さい。お願い致します。

郵便振替口座： 東京2-254464

理論天文学懇談会事務局

会員の異動

新会員

高橋真聡
〒464-01 名古屋市千種区不老町
名古屋大学理学部物理 T X 研
Tel:052.781.5111.x3549
Fax:
Email:

只木進一
〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部物理学第二教室
Tel:075.753.3844
Fax:075.753.3886
Email:c53958@jpnkudpc

蓬茨靈運
〒171 東京都豊島区西池袋3丁目
立教大学理学部
Tel:03.985.2390.
Fax:03.986.8784.
Email:x026099@jpnrky00.bitnet

所属・住所変更

朝岡育子
〒464 名古屋市千種区不老町
名古屋大学理学部U研
Tel:
Fax:
Email:

伊沢瑞夫
〒759-65 下関市吉見永田本町1944
水産大学校教養学科
Tel:0832.86.5111.x304
Fax:03.814.9717
Email:

楠瀬正昭
〒158 東京都世田谷区深沢2-1-1
東京都立大学理学部物理学教室
Tel:03.717.0111
Fax:03.725.8101
Email:

阪上雅昭
〒910 福井市文京3-9-1
福井大学教育学部物理
Tel:0776.23.0500.x421
Fax:
Email:

杉山 直
〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部物理学第二教室
Tel:075.753.3844
Fax:075.753.3886
Email:

長澤幹夫
〒305 つくば市大穂町1-1
高エネルギー物理学研究所
Tel:0298.64.1171.x4318
Fax:0298.64.2580
Email:

1) 総合計画委員会

この委員会は「国立天文台の研究活動のあり方及び将来計画等について長期的視野にたって検討する」ためのもので第1回が3月25日に開かれた。委員長は平山企画調整主幹が務める。副委員長に野本氏、幹事に石黒氏を選んだのち、委員会の果たすべき役割と当面果たすべき作業について議論した。「構想素案」の改訂に取り組むべきという意見もあったが、発足直後のことでもあり、大型装置の計画、大型計算機、スペースとの関係等の問題を天文台の現状を分析しながら、検討していくことになった。当然天文台の分野構成をどの様な方向に重点をおいていくかということも議論の対象になる。今回はまず大学院問題について、とりあえず要求を進めている「客員大講座」方式と、「総合研究大学院」方式のそれぞれのメリット、デメリットについて自由討論を行った。次回（5月9日）にはJNL Tについてその目標、体制、状況などについて検討する予定である。

なおこの委員会の委員は運営協議員会で決定されたので、理論懇には委員の推薦依頼はなかった。そのため理論関係の台外委員が理論懇シンポジウムのときに考えたものと異なっていることをお断りしておく。委員は台外から岡村、高原、長瀬、野本、長谷川、福井、若松の7名、台内が、平山、家、池内、石黒、桜井、笹尾、佐藤、吉沢の8名である。任期は90年3月までである。

2) 理論共通専門委員会

3月28日に第2回委員会が開かれた。天文学データ解析計算センターの共同利用についてN1ネットワーク接続についてはほぼ予定どおりに進んでいることが報告された。4月末までには東大、京大、名大、東北大、北大の各センター及び学情とつながる予定である。そのほかについても希望があればできるだけ接続する方針である。また天文台構内の夜間警備についても進展が見込まれるので計算機の夜間運用の可能性についても具体的に検討をすすめることになった。スーパーコンピュータの導入については、次回のリプレイス時（91-92年？）に導入するためには概算要求以前に国際市場調査が要求される可能性が大きいことを考えると、理論懇としても早急に具体的な検討をはじめ方針を確立することが必要となっている。

共同利用旅費に使い方について一部を分野別に配分して使用することが検討された。この方法をとるメリット、デメリットまた具体的な実行方法が議論された。各専門委員会の検討の後最終的には研究交流委員会で決定される予定。

研究交流委員会の台外委員1名の推薦について議論し、理論懇より推薦のあった柴田氏（愛知教育大）を推薦することになった。

最後に理論分野、及び計算センター関係の人事要求についての方針について自由討論をおこなった。次回は5月24日の予定。

3) 計算機利用について

国立天文台にスーパーコンピュータを導入しシミュレーション研究を強力な柱とすることが理論研究者の当面の目標となっているが、現在の状況について感じるところを述べてみたい。天文台には現在三鷹にM780、野辺山にM380とVP50、水沢にM280がある。野辺山と水沢のものは今年度中に3倍程度の機能向上のリプレイスが予定されている。水沢についてはN1にも入る予定がある。これらの計算機は野辺山のVP50を除いて形態に差はあるが共同利用に供されている。理論研究者にとって最も興味のあるのは野辺山のスーパーコンピュータであるが、これは干渉計のデータ処理装置という位置づけにあるものなのでほとんど利用できない状態にある。

一方外部からみれば天文台にはこれほど多数の大型計算機があるのという見方にもなる。従って理論研究者は将来の三鷹へのスーパーコンピュータの導入を目指すさまざまな活動のなかに現有のコンピュータを100%以上使いきるということを含ませる必要があると考える。特に野辺山のスーパーコンピュータの位置づけが問題になる。これはやはり観測装置の一部であって計算機ではないという位置づけになるであろう。しかし同時に、これを使えないと諦めずに、さまざまなアクセスを考えて、また多少の使いにくさの犠牲を払っても使用していくことが将来の発展につながるものと考えられる。また水沢の計算機も大いに利用価値のある。水沢に理論部門が1部門あることはわれわれにとって重視すべきことである。特に東北地方のユーザーは大いに水沢の計算機を利用すべきではないだろうか。観測の研究者の目から見ると理論の研究者の要求はまだ本気のものであるとは受け取られていないのが一般的状況である。その状況を打破するためにも三鷹、水沢、野辺山の計算機を大いに利用していくことを訴えたいと思う。